

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

令和5年【笹の宿】

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	分かりやすい理念を掲げ、理念についての研修を行い、理解を深め、実践に繋げる努力をしている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑や隣接施設で行われるボランティア行事への参加や地域の行事への参加で交流していたが、いずれも現在は中止となっている。	ボランティアや地域行事への参加を再開し始めた事業所も増えてきている。施設はクラスターになりやすいこともあるため注意しながら進めて欲しい。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議には、桑名市介護高齢課や地域包括支援センター担当者、家族代表、地域代表に参加頂き、サービスの実情を報告し、意見交換で出された助言等をサービスの向上に活かすよう努めている。	運営推進会議における家族アンケートを参考に、利用者個々のニーズに合わせた取り組みを進めている。現在は要望のあった絵手紙教室を企画し、利用者に参加してもらっている。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に運営推進会議の場で事業所の課題について伝え、意見を求めている。	市町村以外にも、同業者との繋がりを今後は増やし話を聞ける場を設け、意見を参考にしながらサービスに生かしていきたい。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回、身体拘束についての研修会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知している。月1回のケアミーティングにて検討し、2か月に1回の委員会(運営推進会議)で報告している。「言葉による拘束」に繋がる言葉かけを行わないよう、教え合う体制を作っている。自由にユニット間の交流をする環境は作れていない。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご本人様の意向によってケアが実践されていると感じる。意図しない声かけが拘束につながることもあるので意識し合える体制づくりを継続してほしい。利用者様を危険から守るため、命を大切にすることを優先した言動は多少必要な時もあると思う。転倒や怪我防止に関する研修会や報告等がされている。身体拘束に対する理解をしても、感情に任せて知らず知らずの虐待や身体拘束に繋がることがあることを知っておく。職員間で常に確認・是正職員教育を反復することが必要。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止の研修会で学ぶ機会をつくり、週1回のカンファレンスや月1回のミーティング、毎日の申し送りなどで不適切介護を含めて検討し、常に注意と防止を呼び掛けている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員自身の不安解消、軽減に繋がる環境づくりに努めてほしい。介護職は常に人員不足であり、認知症対応となると更にストレスを感じる事と思う。職員のストレスにより虐待へと繋がりがかねない。職員や利用者のメンタルヘルス対応はとても大切な

							こと。利用者さんに合わせて常々注意を払っていると感じる。職員の出社時に心身に異常がないか自己診断チェックリストを付け職場に持ち込まないよう自己啓発するという方法もある。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	制度について学ぶ機会をつくり、関係機関へ繋ぐ重要性の理解に努めている。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時の説明を行いながら疑問点に答え、入院時や制度の改定などによる状況の変化がある場合にも説明を行い同意を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の思いを汲み取る様に努めている。家族の来所時や電話で、意見や要望を聞く機会を設けている。個別の対応が難しく、運営へ反映できないこともある。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ご家族様の意向からも満足されている様子が伺える。利用者様はうまく伝えられない方もあり、それぞれ本人、家族様の思いがある中で、全ての方への個別対応は非常に難しいと思うが、電話でお話を聞くだけでもご家族様の安心に繋がると思う。コロナ制限がある中で充分に対応していると思う。利用者さんへの表情等細やかなチェック、運営会議でのご家族代表の方の参加、意見交流がある。家族の意見反映も大事だが、職員と利用者の相性があるので、それなりに職員を定期的に代える等の処置が必要と思う。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週1回のカンファレンスや、月1回のケアミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設け、日常的にも管理者に言える状況を作り、必要に応じ法人会議にかけている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得の支援、勤務状況の把握、働き方改革への取り組み等を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人全体として取り組んでいるとの事、働き易く続けられる職場づくりを目指してほしい。職種、立場、正職、パートなどそれぞれの思いは違うと思うが、資格取得の支援があり、資格を取得する事で自信を持ち、向上に繋がると思う。職員が資格を取得し、自信をつける事でスキルアップに繋がっていくと思う。働き方改革へ取り組み、職員の向上心、意識向上に努めている。就業環境は職員において非常に大事なことで利用者への影響もある。同業他社との比較も必要と思う。

12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修を受ける機会が確保され、法人外研修は、管理者や職員の希望に応じて参加している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人全体として取り組んでいるとの事。資格取得者が増えているとの事で、次には内部研修を行う側をする事で、再確認、向上に繋がると思う。介護は大変な仕事。職員の皆さんがカウンセリングを受けられるような事が出来ると良い。研修会への参加と報告、勉強会の実施、資格取得の支援がある。様々な研修・資格取得でスキルアップに努めた職員に対してメリハリをつける方法もある。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	三重県地域密着型サービス協議会や地域で行われる研修会、または、活動に参加することで同業者との交流ができている。職員同士の交流はオンラインのみとなっており、機会は少ない。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑を「生活の場」として、家庭的で楽しい雰囲気にする事、信頼関係を築くこと、また利用者が助け合いの心を持つことを大切にしながら、出来ることはお願いしている。			
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会話の中で個々の懐かしい話を話題にするよう心掛けている。外出の頻度が少ないため、懐かしい場所、馴染みのある風景等を映像で見て語らう機会を作っている。感染症の流行を見ながら、家族との外出や帰宅、施設行事としての外出の方法を再検討中。	感染症の様子を見ながら、馴染みの人や場所との繋がりを維持できるよう、家族間での少人数の会合が出来るように、今後は細かな決まりなどを決めていきたい。		

II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ゆっくりとお話しを聞く時間がなかなか持てないものの、生活の中で、「本人はどうしたいのか」を聞き取り、または、感じ取ることで、意向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別援助計画を作成し、週1回カンファレンスを行いモニタリングを実施。目標の達成度について話し合い、本人、家族の意向や職員の意見を個別援助計画に反映している。	個別援助計画では、目標など大きな変更は少なく、サービス内容の小さな変更があることが多い。家族と職員の間で、課題やケアのあり方の共有のツールとして活用し役立てていきたい。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	聞く限りでは、丁寧なアセスメント、モニタリングを経て計画作成されていると感じた。それぞれの役割で、チームとしての計画作成はすばらしい。コロナやインフルエンザ等の感染症による高齢者の長期自粛もやむを得ないと思うが、そろそろ高齢者だからこそ、柔軟な対応にして計画するといったと思う。日々の様子を複数で情報共有する事で、少しの変化も見落としなく対応していると思う。ご家族、利用者様との話し合い、モニタリングによる目

							標設定、本人の体調変化によるケア方針も計画に入れている。個別援助計画を作成し問題点がある場合、定期的に直しするより、その都度問題点を関連間で対処の方が実効性があると思う。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の様子やケアの実践は個別に記録し、申し送りやカンファレンスでその情報を共有しながら話し合っている。職員の気づきや工夫についても記録と情報共有に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	記録はとても重要なものだが、その気づきや工夫も共有しているとのことで素晴らしい。利用者様の反応や様子、気づきなどを専門用語を使用せず短めに記しているとの事で、家族様は普段見えない様子を分かりやすく知ることができる。以前やっていたようにスーパーに行くのも嬉しい計画ではないか？ランチの夕食もしてほしい。利用者さんの表情にも気を付けて記録。共有ツールとして、個別援助計画書のサービス内容を検討している。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一時的に継続した医療の必要が生じた際の内科への通院支援を行っている。食欲が低下した方には家族、主治医との連携を密にし、栄養士に相談しての食形態の工夫や家族との連携により、食べる楽しみを少しでも続けられるよう取り組んでいる。	病気の悪化や認知機能の低下のため、食事が摂れなくなってきている利用者には、職員の介助のほかに、個別に家族に差し入れをお願いし、食べる楽しみを感じ出来るだけ食事を摂ることができるように工夫をしている。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議参加者からの助言等を、防災や活動に活かせるよう努めているが、ボランティアの受け入れや地域行事への参加は令和2年以降行っていない。	利用者が地域の行事に参加することは現状ではまだ難しいが、職員が参加することで苑での活動に活かしていきたい。 地域の喫茶店などに連れていきたい。(家族)		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医を協力医に変更等の説明を入居時にしている。週1回協力内科医の往診がある。口腔や目の不調があった時は、本人や家族の治療への意向を聞き、協力医へ伝えていく。その他の医療機関への受診は、医療間連携と家族の協力を得て行っている。			
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時、医療機関との書面と口頭による情報交換を行っている。また、居室の確保についての家族との相談、退院の見込みがついた時からの病院関係者や家族との情報交換、退院に向けての相談に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	早めの相談から始め、連携をしておのスムーズな入退院で、ご本人の負担軽減にも繋がっていると思う。サマリーの書き方の研修も行われており、認知症があるための注意点を重要事項に記入しているとの事で、再度利用する時にスムーズに検討することができ、利用者様職員双方が気持ちよく受け入れる事が可能になると思う。青木内科との連携があり、家族としては安心。医療機関、ご家族との

							情報交換、(口頭、書面による)は常に行っている。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時や体調に大きな変化があった時に、本人、家族、主治医、管理者同席で、重度化した場合や終末期についての話し合いと意向の確認を行っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	”出来る限り竹の子苑で”という要望に可能な範囲で対応し、家族の安心に貢献していると思う。できるだけ要望に答えているとの事、状態により他施設の検討も必要だと思う。その時が来たら相談させてもらいながら、本人にとって一番良い方法を見つけられたいと思う。チームの中に地域関係者の対応は難しい。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	急変や事故発生時のマニュアルを備え、研修と訓練を行っている。職員が自信を持って行動する為の、「実際に行動する訓練」を充実させていく必要がある。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害対応マニュアルを備え、年2回消防署員の指導の下、訓練を行っている。土砂災害を想定して、搬送方法の検討や備蓄品の見直しを適宜行っている。火災・土砂災害・地震について、「実際に行動する訓練」を行っている。地域や他施設との連携強化と職員への更なる周知が必要。	受援計画を作成し、災害時に地域に協力を依頼する場合、何をどれくらい協力してもらうのか基準を明確にしておく。災害時に必要な利用者の情報は、持ち出しリストとして既に作成している。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今の取り組みにプラスして、受援計画のようなことも検討してはどうか？災害担当やBCP担当があり、図面を持って点検チェックをしているとの事、土砂災害やコロナ以外の感染症の研修も行われており充分だと思う。図面を見ながらのコンセンの埃等チェック、火災予防の対応、日頃からシミュレーションはありがたい。消防訓練、防災意識の向上に努めている。緊急連絡先の把握、災害からの避難は日頃の訓練で実施している。訓練の日程は、公表せずに実施した方がよい。また、土砂崩れの対策は、複数の災害箇所を仮定して行った方が実行力がある。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員自身が気付かない事もあり、気になる対応や言葉かけがあった場合には注意し合い、人格尊重やプライバシーの保護に努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	認知症であってもひとりの人として尊重されるよう、職員の意識づくりに努めてほしい。職員同士で注意し合える関係性があるのは良い事。利用者一人一人の癖や特徴を見つけながら接していると思う。プライバシー保護、人格尊重に努めている。入所時に家族様より情報を得ていると思うが、入所後の変化を細かく観察し情報を得ることが大切。プライバシーは職員全体で十分確保し、個々の利用者には担当職員が対応するのがよい。

27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事や入浴など、ある程度決められた時間帯のある一日の流れの中で、利用者の思い、暮らしのペースを優先することを心がけ、柔軟な対応をしている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. ほとんどできていない	三食とも法人の厨房で調理したものを苑で配膳している。できそうな方やしたい方はテーブル拭き、自発的な下膳、食器洗いなどの片付けを職員と一緒にいき、意欲に繋げている。また、食事前にメニューを伝えている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の準備や片付けも食事の一連の動作として取り組むことで楽しみを持ってもらえるよう支援してほしい。時間になるとテーブルを拭き、料理の香りがしてくる。そして、食欲が促されるというのはとても大切な身体の働きだと思う。それが無いと時間さえも分からなくなりかねない。母の好きな物を持参できること、食事のメニュー表を面会時に見られることはありがたい。メニューがわかり面会時の会話が広がる。自発的な行動を職員が見守っている。毎月、入所者の希望を聞き公平に献立を作り、1か月の献立表を掲示するという方法もある。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の様子観察、摂取量の記録をしている。食前の口腔体操、歯科に相談しながら噛む力の改善、ムラなく食べる為の声かけや食形態の工夫をし、個々の好みとタイミングに合わせた水分提供をするよう努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の力に応じ、声かけ、歯磨き、口腔清拭、磨き直し等の介助を行っている。自分で行える方にも、「できているか」の見守りをするよう努めている。歯科からの助言を受けケアの実践に活かしている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	嫌がる方への対応は難しいが、引き続き工夫した支援をお願いしたい。口腔ケアを嫌がる方には無理に行わない方がいいと思う。嫌がる原因を地道に追求する事が大切。入居前はまったくできていなかったのが、今、見守ってもらい感謝している。歯ブラシが無理なら、指にはめ込むブラシとか、ガーゼで拭いたりとかはどうか？歯周病は万病のもと。歯周病予防も大切。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の記録から、個々に合わせた声かけ、誘導等を行っている。また、トイレの場所を分かり易く表示し、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘については、原因別の個々の対応を検討し、主治医とも相談している。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別に対応されていることが分かった。便秘の方が多いと思うが、排便管理は難しい。失敗により、自尊心を傷つけない様、注意が必要。外出できるようになった時におむつの交換等、どれくらいの介助が必要か分からないので少し心配。利用者本人の力に応じた見守りができている。清潔保持意識の向上に繋がる。

32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1人につき、週3回程度入浴できるようにしている。時間帯は決まっていますが、その中で本人の体調やその日の気分に合わせて、入浴の順番を変更したり、入浴日を変えるなどしている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はなるべく活動的に過ごせるよう、手作業や運動の機会を作りながらも、一人一人の体調や希望に合わせて、適度に居室で休んだり、ソファでくつろいで過ごせるようにしている。心穏やかに眠りに就けるよう職員は関わり、就寝時間は一人ひとりのペースを大切にしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化があった場合は薬との関係も意識し、薬情報で確認している。分からないことは、医師、看護師、薬剤師に相談し、指示を仰いでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	母体に病院がある強みを活かして連携に努めてほしい。コンプライアンスできていると思う。青木内科と連携している事で、安心している。医師、看護師、薬剤師との蜜な相談、早急な指示対策がなされている。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほとんどできていない D. あまりできていない	持てる力に応じた役割や楽しみ事を続けられるよう心がけ、日々の活動に活かしている。利用者個々の生活歴や力に合わせた活動を増やし、誰もが楽しみある生活を送れるよう新たな活動に取り組んでいる。	利用者の生活歴や持てる力を活かすという点で、職員の介護技術や気づきなど力量に左右されるところがあるため、職員の教育を充実させ日々の活動に活かせるようにしていきたい。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	夏祭り、運動会は近所の室内で実施。花見ドライブは市内や隣の桜の見どころを回る。本人の希望に沿っての外出はできていない。	適度な外出を目指しているがなかなか実現していない。今後気候の良い間は近くの公園に出かける機会を作っていく。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人でお金の所持はしておらず、苑内で使う機会もない。行事の中で金券を使っての買い物体験は好評だった。今後どのように続けていくかや実際の買い物に出掛けることが課題となっている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話は自分で管理できる方に限って所持可となっている。手紙の返事を書く支援は本人の希望を聞いて行っている。			

39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の身体機能に合わせた椅子やクッションを使い、リビングには利用者と職員が一緒に作った季節毎の壁画を飾っている。温かいうちに食事が届き、職員が盛り付けを始めることで、食器の音や料理の香りがリビングに広がり、食事の時間が近いことを感じてもらっている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一人ひとりが安心して快適に過ごせていると感じる。穏やかな気持ちが続くよう引き続きお願いする。昼食時には竹の子苑内でご飯を炊き、音や香りが広がるので五感が働き、ドアノブ等危険がある場所では布をかけ対応し十分だと思う。家で過ごしている様に、生活音、におい(お米が炊ける)など、安心感を与えてもらっていると思う。季節感を持って楽しい時間を過ごせるよう、心配りがある。
----	---------------	--	--	---	--	--	--

IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)

40		本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	気の合う利用者同士で会話、片付けや縫物の手伝い、居室で一人テレビを楽しむなどそれぞれの過ごし方ができている。			
41	本人主体の暮らし	本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	本人や家族からの聞き取りによって得られた生活歴や習慣、特徴などの情報を職員が共有し、普段の会話やケア、活動、行事に活かす努力がされている。細かな病状管理を必要とする利用者の増加により、生活歴や暮らしの習慣という点で、個々へのきめ細かな支援対応ができていない。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	個々に違う病状管理や体調変化に応じて適切なケアや治療を受けることができています。また、事故防止と自立の両面から、生活環境への配慮がされている。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	個別に管理しており、良いと思う。お薬の服薬等、しっかり対応してもらっているので安心。利用者自身の「できる事」に気配りがある。事故防止に注意している。自室における利用環境は自主性に任せ、危険・問題等がある場合、利用者の理解の上サポートするのがよい。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	トイレや就寝、やりたいこと、過ごしたい場所など、その時の体調や希望に合わせて、自分のペースで生活できている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	家具や棚の持ち込みは殆どないが、写真や時計、手紙、仏壇、人形などが身近にあり、安心を得る様子が見られる。		A. 充分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	ご本人のお気に入りの物と一緒に生活する事で、心身の安定に繋がると思う。部屋で利用者の方や職員の方と過ごしている時の表情を実際に見た事がないので、普段の何気ない日常の様子が見たい。馴染みの物が身近にある事から安心感を得る事ができている。生活環境はできるだけ自主性を

							重んじ、自宅にいた時の環境を維持してはどうか？
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ①あまりできていない D. ほとんどできていない	苑行事や気分転換、または希望があった場合に竹の宿やテラスに行くことはある。苑外の施設で夏祭りに参加することや、スライドショーの動画で旅行気分を味わうことができているが、意向に沿った外出はできていない。	外出の代わりにスライドショーで日本各地の夏祭りの動画を見てもらった。有名なお祭りや珍しいお祭りの動画をみなさん楽しそうに観ていた。苑外施設で開催した夏祭りでは、今年初めて商品券を使用していたのバザーを行った。久しぶりの買い物ということもあり、みなさん真剣に商品を選ぶ姿があった。買い物を楽しめた様子だった。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができる	A. 十分にできている B. ①ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	困難なことは職員や利用者仲間の助けを借りながら、一人ひとりの意欲と体調に合わせ、役割や楽しみ事を行うことができる。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができる	A. 十分にできている B. ①ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者同士や職員との会話と交流の機会を持ち、体力や気力を見ながら無理のない範囲で、歌、手伝い、体操など得意なことへの参加ができている。		A. 十分にできている B. ①ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	お手伝いなど、「役割」を持つことで、自分は必要とされていると感じ、生き生きと意味のある生活が出来ると思う。支援が必要かの見極めが大切。個人の特技・趣味等を理解し、職員・利用者で持続できる様に考察することが大切。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ①ほとんどできていない	家族との面会は行っているが、近隣や地域の人々との交流ができていない。	現在は玄関先での面会となっているが、今後利用者の居室での面会が出来るようになるという。他施設では大正琴などのボランティアは、季節は限られるが屋外でしている所が多いと聞く。苑でも屋外やテラスなどで行えるようなボランティアの検討をしたい。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができる	A. 十分にできている B. ①ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑内で親しくなった人との関係や職員との関係を大切に、苑に居ること、職員や利用者同士で過ごすことに安心感を得ている様子が見られる。家族や地域との自由な交流、個々の希望に合わせて外出ができていない。	入居者の性格など個性の違いから、竹の宿、笹の宿の雰囲気が大きく変わる。職員はその個性、雰囲気に合わせて対応をしている。現在利用者は女性が多いこともあり、女性向けの美容的な行事をすると楽しいかもしれない。(家族)	A. 十分にできている B. ①ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナによる制限が続く中、ご本人の意向を尊重しつつ安心安全を守ることは大変かと思う。入居者の日々の生活を守るためにも、職員自身のケアにも努めてほしい。何でも相談できる利用者や職員の関係であったり、また、職員間同士においても何より大切な事が出来ている施設だと思った。話すことが好きな母、職員の方や、利用者さんと「おしゃべり」ができておかげで認知症もあまり進んでいない様に思う。いつも手厚いサポートに感謝の気持ちでいっぱい。利用者さんへの対応は、個々多様であるが、信頼関係が築かれ、個別相

								談にも応じて適切にこなしている。職員間、家族との連絡等、密にしている。個人生活から団体生活に変革があるため、出来るだけ自主性を重んじ、職員・家族でサポートする事がなにより重要。
--	--	--	--	--	--	--	--	--